

# 共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2120号 2024年11月10日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

これまで地域づくり担  
手の中心となっていた  
45歳〜74歳の世代が今後  
急速に減少し、逆に85歳  
以上の人口は高止まりが  
続きます。かつ高齢の独  
居世帯が増加し、介護を  
必要とする方や認知症の  
方も増えると予測されて  
います。こうした状況に対  
して丸藤氏は、制度や行  
政の施策のすき間を埋め  
ることが必要であり、「み  
んながそれぞれ地域で出  
来ることを担っていか  
なければ、地域は持たない  
」と指摘します。

参加者同士のグループワーク  
では、「助け合い体験ゲーム」が  
行われました。

これはカードを使って「自分が  
困っていること」をお互いに他  
者に説明し合い、「助けを求め  
る」ことを体験するゲームです。

本当に困っている時も隣近所  
の人に、ちゃんと伝えません。

他者のSOSに気付くことは難  
しいので、地域の中で「お願い上  
手」になることが大切と、講師の  
丸藤氏は説明していました。

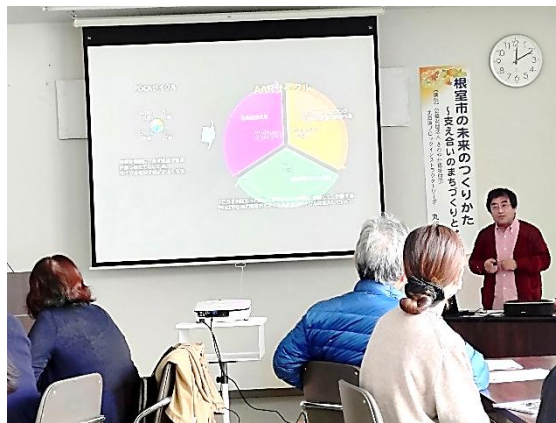


趣味や文化、ボランティアなど  
グループ活動に参加する方は認  
知症の予防や介護予防などに効  
果が高いというデータがあるそ  
うです。丸藤氏は高齢者が元氣  
にくらししていくためには人と人  
とのつながりが大切であり、その  
ためには地域で「近助」のつな  
がりを作っていくこと。

自分の元氣活動（介護予防）と  
地域の元氣（助け合い・支え合い）  
を互いに相乗効果のある「二刀  
流」として取り組んでいくことの  
重要性を強調されていました。

11月2日、根室市社会福祉協議会が主催する  
「令和6年度 支え合いを広げる地域づくり研  
修会」が行われました。民生委員や町内会等  
で活動する市民ら24名が参加し、根室のこれか  
らの地域づくりのあり方について学びました。

## 「支え合いのまちづくり」を学ぶ 市社協が市民対象の研修会を開催



公益財団法人さわやか福祉財団の  
北海道ブロックインストラクター丸藤  
競（まるふじきそお）氏が「根室市の未  
来のつくりかた」をテーマに講演しまし  
た。

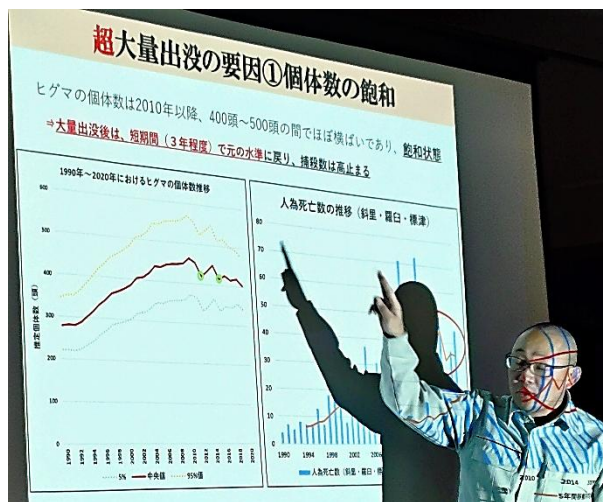


## 令和6年度 根室市文化賞贈呈式

11月3日、根室市文化賞贈呈式がベルク  
ラシック根室で開催されました。  
今年度は長年、根室管内で教員を務め、  
また地域のスポーツや文化の振興に寄与  
された志和秀和氏が受賞されました。

志和氏は「これまで支えて下さった方、  
また仲間と一緒に活動してきた大きな輪  
の一つとして受賞させていただいたもの」  
と述べ、自身が新任教員だった時の恩師の  
「自分以外は皆、師である」という言葉を  
紹介しながら「多く市民の温かい心に触れ、  
これまで育てて頂いた」と挨拶されました。

羅臼町の郷土資料館で、  
オホーツク文化と擦文文化、  
そしてそれらが融合した時  
代の土器をはじめ、松法川  
遺跡からの出土品等を解説  
する天方博章学芸員。



10月31日、根室地方森林・林業・林産業  
活性化推進議員連盟協議会が令和6年  
度の研修会を羅臼町で開催しました。  
参加した根室管内1市4町の議員は、  
重要文化財の松法川北岸遺跡の解説や  
根室地域のヒグマの生態と対策の現状  
についてあらためて学びました。

## ヒグマの市街地への「超大量出沒」が深刻化 根室地方林活議連が羅臼町で研修会を行う

公益財団法人知床財団の梅村佳寛主任  
は根室地域のヒグマの現状と課題について  
講演しました。1989年の春クマ駆除の  
廃止後、30年間でヒグマの個体数は倍増。  
農業被害のほか、市街地への侵入など問題  
が広がっています。特に昨年は山のエサが  
不足し知床地域では市街地での超大量出  
没となりました。捕殺数も30年前の7倍  
に増加。梅村氏は「人身事故が起きなかつ  
たのは奇跡的」と言います。

既に地域住民や行政、知床財団で出来  
る対策は限界にきており、ヒグマの絶滅は  
回避させつつも適切な個体数調整を図る  
ことが求められています。一方で捕獲従事  
者は高齢化が進み、また各自自治体でもヒ  
グマや鳥獣対策の専門家の配置を含め人  
材育成や担い手確保が課題であることを  
説明していました。